様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３４３０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2012～2013
課題番号：２４８２００６１

研究課題名（和文）「民族学校」の日韓比較研究――日本の「朝鮮学校」と韓国の「華僑学校」を中心に

研究課題名（英文）A comparative study of the Korea Overseas Chinese Schools and Korean ethnic schools in Japan

研究代表者
宋　基燦（Song, Kichan）

大谷大学・文学部・助教

研究者番号：６０６３６０９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,100,000円、（間接経費）　630,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、学校教育における民族主義的言説と「国民」への統合が強調されている日本と韓国の教育環境のなかで、分離主義的教育自治空間を維持してきた日本の「朝鮮学校」と韓国の「華僑学校」に対して人類学的現場研究を行い、それを比較した。研究の結果、日本の朝鮮学校と韓国華僑学校の教育実践からは、民族的同質性が強調されるホスト社会への抵抗というある種の連続性は認められる。しかし、植民地被支配の記憶の有無という歴史的背景の差と、学校内部の民族構成、曖昧な「祖国」の存在感から、生徒のアイデンティティ構築及び管理における大きな差を生み出しているようである。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is to compare "Chosengakko(Korean ethnic schools)" in Japan and "Hwagyohakkyo(overseas Chinese school)" in Korea to clear the continuity and difference between them.
Among the educational environment of Japan and Korea that national integration and nationalistic discourse is emphasized, it is unusual that "Chosengakko" and "Hwagyohakkyo" could create their educational autonomy space in host society and maintain it for a long time. This study carried out an anthropological field research toward this `unusual education space` and compared it.
As the results of this study, from the educational practices of the two schools, I found there exists a continuity of resistance to the host society that ethnic homogeneity is emphasized. However, the presence of ambiguous `homeland`, and the difference of the historical context from the presence or absence of memory of the colonial rule, make a great difference in identity construction of its students.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：在日コリアン　エスニシティ　民族教育　朝鮮学校　華僑学校

１．研究開始当初の背景

近代的国民国家の成立において、日本と韓国は「単一民族神話」に基づいた民族主義言説が支配的言説として働いてきた共通点がある。またこのような排他的民族主義の言説は、日本と韓国の教育現場でも大きな影響をもたらしている。学校教育全般において民族主義的言説と「国民」への統合が強調されている日本と韓国の教育環境のなかで、日本には「朝鮮学校」、韓国には「華僑学校」といった比較的歴史の長い「外国人学校」が、それぞれ分離主義的教育空間を維持してきたことは、日韓両国におけるナショナリズムとレイシズム、民族関係の諸現象を理解する上でとても重要な現場となる。

２．研究の目的

本研究の目的は、日本の「朝鮮学校」と韓国の「華僑学校」への人類学的現場研究を通じて、各々の学校の現状とその教育のもつ意味を実証的に把握し、それを比較することによって、異質な民族集団に対する日本と、かつて日本の植民地だった韓国両国のナショナリズム言説と実践における連続性と差異を実証的に確認することである。

３．研究の方法

朝鮮学校と韓国華僑学校の学校現場ならびに学校を中心としたコミュニティへの調査は、人類学的現場研究の手法が主に使用された。日本の朝鮮学校へのデータは、報告者の既存の研究（宋基燦、2012）で分析した大阪の朝鮮中級学校と初級学校への参与観察調査結果が主に使用されたが、現状を把握するために数回の補足調査を行った。韓国の華僑学校へのデータは、文献資料と 2012 年 8 月から 2013 年の 9 月まで、主に夏期と春期の休みを利用して行った韓国仁川市所在「チャイナタウン」と「韓国仁川華僑中山中学」への現地調査結果である。「韓国仁川華僑中山中学」は韓国で最も古い歴史の華僑学校であり、小学校から高等学校課程まで設置されて、現在 427 名（小学部 188 名、初中部 140 名、高中部 99 人）の在学生がいる。学校の名前の由来は孫文の故郷の中山市にちなんだものである。この学校への集中的な現場研究は、主に 2013 年 8 月 29 日から 9 月 12 日まで行った。

４．研究成果

(1)　二つのエスニック・グループの比較

日本の「在日コリアン」と「在韓華僑」二つのエスニック・グループの根本的違いは、その存在に至る歴史的背景とその記憶の共有にあると言っても過言ではない。世界の華僑の一般的歴史は、「クーリー」と呼ばれた単純労働者の輸出にその起源をおいているが、韓国の華僑は当時の朝鮮と中国（清）の関係により、「上国」の商人として朝鮮半島に定着した歴史をもっている。このような歴史的経験は日本による朝鮮半島への植民地支配をその存在の背景としている在日コリアンとは大きな違いをみせている。二つのエスニック・グループの主な違いを以下の表でまとめた。

	在日コリアン	在韓華僑
存在における歴史的背景	1910 年　日韓併合 植民地支配による移民、「難民」 徴用・強制連行	1882 年　朝清商民水陸貿易章程 1884 年　仁川に租界地開設 1894 年　日清戦争 1931 年　「萬寶山事件」

<table>
<tr><td>人口</td><td>約 56 万（特別永住者：約 39 万）

在日コリアンの人口は、在日コリアンの定義によって変わることがある。</td><td>約 2 万
2012 年の統計によると国籍が「台湾」になっている人は約 3 万だが、そのうち、在韓華僑と判断できる人数は以下の在留資格の人数から把握できる。

<table>
<tr><td>区分</td><td>居住 F-2</td><td>永住 F-5</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>男性</td><td>2,828</td><td>7,652</td><td>10,480</td></tr>
<tr><td>女性</td><td>2,407</td><td>6,264</td><td>8,671</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>5,235</td><td>13,916</td><td>19,151</td></tr>
</table>
＊「在韓華僑Ｆ－５－８」
男性 6,788　女性 5,240
合計：12,028 名</td></tr>
<tr><td>国籍</td><td>大韓民国、朝鮮（国籍ではない）、日本</td><td>中華民国、韓国</td></tr>
<tr><td>国籍の変遷</td><td>大韓帝国時期：韓国
植民地時期：日本
サンフランシスコ条約以降：朝鮮</td><td>来韓初期：清国
辛亥革命（1911）後：中華民国
1949 年以降：自治状態
1992 年韓中国交正常化以降：台湾</td></tr>
<tr><td>母語／母国語</td><td>日本語／朝鮮語</td><td>韓国語／中国語</td></tr>
</table>

（2）　韓国における華僑差別の歴史

戦後日本社会で行われてきた在日コリアンへの民族的差別も厳しいものだったが、韓国社会における華僑への差別もその厳しさでは日本に負けずとも劣らなかった。韓国社会における主な華僑差別と排除の歴史は以下の通りである。

・1948 年　外国人に対する為替規制を実施、華僑の貿易における取引費用が大幅に増える。
・1950 年　倉庫封鎖措置：大量に在庫を保管していた華僑商人たちへの被害、没収
・1953 年と 1962 年のデノミネーション：　現金を大量に保管していた華僑に大きな打撃
・1961 年　外国人に対する土地所有を禁止（1968 年に宅地 200 坪まで、商業用 50 坪までの所有を認める。外国人の土地取得が全面的に自由になったのは 1998 年 IMF 以降である。）
・1970 年代　中華料理屋のジャージャー麺の値段を固定、ご飯物の販売を禁止
・1990 年代末まで韓国政府は華僑の帰化を抑制する政策をとる。（1980 年代初まで華僑の韓国国籍取得は年間 10 人程度だった。）

近代化時期における特権層的存在だったことと、巧みな商売能力による国内商人との葛藤などから、在韓華僑にたいする韓国社会の民族感情は、華僑の定着初期から友好的ではなかった。また日本の植民地支配の結果、内面化された民族間の位階構図が、植民地時期から形成され、その後現在に至るまで続いている。この点から、異民族排除の構造における韓国と日本の間の連続性を発見することができる。

(3)　二つの民族学校比較

	朝鮮学校	韓国華僑学校
総括管理組織	教員の人事から教科課程の編成まで総連の中央教育局による中央集権的管理が行われている。	韓国華僑協会による緩やかなネットワーキングと調整が行われている。
居住国の学校教育法上の位置	各種学校 日本の学校教育法に定められている「学校」と同じ名称を使用することはできない。(初級学校、中級学校、高級学校、大学校)	1999 年までは任意団体として分類され、就職と進学に不利だったが、1999 年から各種学校として外国人学校として認められている。 韓国の小中等教育法に定められている「学校」と同じ名称を使用することはできない。(小学部、初中部、高中部)
学校の規模	日本全国に 66 か所(幼稚園：4、初級課程：53、中級課程：33　高級課程：10　大学：1) 学生数は約 9,000 人～10,000 人 日本最大の外国人学校	韓国全国に 14 か所(大学無し) 学生数は約 1,800 人
教科書	総連の教育局が作った統一された教科書を使用	台湾の教科書を使用
学制	日本の学校と同様	台湾の学制（9 月から新学期）
教員	教員の殆どは東京の朝鮮大学校から独自の教員養成教育を受けた人であるが、音楽や美術など特殊な科目においては日本の大学出身者も認めている	在韓華僑の中で台湾の師範学校出身の人が中心で、台湾から兵役の代わりに派遣される教員もいる。
民族衣装の制服	女子学生のみ民族衣装の制服	中学課程から制服はあるが、一般的学生制服
授業言語	朝鮮語、日本語の授業には日本語	中国語、韓国語の授業にも中国語の使用頻度が多い。
学校内における母国語専用の強制	ウリマル（我が言葉：朝鮮語）100 パーセント使用運動など、学生同士による総合監視によって徹底している。	学校の構内では中国語で話すように指導はするものの、それほど厳しくはない。
学生組織	少年団	班聯会
国家的象徴の掲示	国旗、金日成・金正日の肖像画（高校課程以上のみ）	国旗、国歌、孫文の肖像画
生徒への体罰	過去はよくあったが、最近は殆ど見ることができない。	公然と行われる
高校卒業後の進路	日本の大学、朝鮮大学校、韓国へ留学、就職	韓国の大学、台湾に留学
生徒の国籍	韓国、朝鮮、日本	台湾、中国、韓国など
居住国学生の入学	原則的不可	定員の 30%内まで可能
居住国政府からの支援	無し	無し

(4)　学校生活と生徒のアイデンティティ

一面的観察からは、朝鮮学校の教育は原理主義的民族主義の教育空間にみえる。朝鮮学校は、朝鮮語と朝鮮文化による文化的自治空間になるため、生徒たちが朝鮮学校に通うことは、外部（日本社会）から朝鮮学校へと参加していく行為であり、朝鮮学校は行為を演じる舞台のような場となる。この際生徒たちの自我の現れは、使用する言語と空間（場面）によって多重的に表出される。しかし、ここ

での空間（場面）は必ずしも固定されるものではなく、対面的状況のなかで、即時に変わるものでもある。朝鮮学校の生徒は、このように言語と空間によって重層的に展開される世界を自在に横断しながら、即時に自分のアイデンティティを管理していく。その時生徒たちの行為は、必然的に「演劇性」を帯びるが、舞台となる「日本社会」と「朝鮮学校」の実在性によって、「演技」は「偽り」に落ちることはない。そのため、一見原理主義的民族主義の教育空間にみえる朝鮮学校のなかで、個人を抑圧する本質主義をかわしながらも個人をアトム化することもない、より柔軟なアイデンティティへの可能性が開かれ、ここで「国民」から追い出された存在が国民国家の枠組みを乗り越えられる力が生まれるのである。

ところが、韓国華僑学校の教育実践からは朝鮮学校とのある種の連続性は認められる。しかし、植民地支配の記憶の有無という歴史的背景の差と、学校内部の民族構成、曖昧な「祖国」の存在感から、生徒のアイデンティティ構築及び管理における大きな差を生み出しているようである。

＜参考文献＞
王恩美，2008,『東アジア現代史のなかの韓国華僑――冷戦体制と「祖国」意識』三元社.
宋基燦，2013,『「語られないもの」としての朝鮮学校――在日民族教育とアイデンティティ・ポリティクス』岩波書店.
李 正熙　他，2007,「韓国社会の韓国華僑に対する差別に関する歴史学的考察」京都創成大学紀要 7，141-175.

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計１件）

<u>宋基燦</u>『「民族学校」の日韓比較研究―日本の「朝鮮学校」と韓国の「華僑学校」を中心に―』、第 86 回日本社会学会大会　『民族・エスニシティ』部会、2013 年 10 月 13 日、慶應義塾大学三田キャンパス

６．研究組織

(1)研究代表者

宋　基燦（Song，Kichan）
大谷大学・文学部・助教
研究者番号：60636091